

JACET Kansai Newsletter

No. 69 July 26, 2014

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 野口 ジュディー (武庫川女子大学) (Chapter President: Judy Noguchi, Mukogawa Women's University)

事務局: 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1 近畿大学 理工学部 11 号館 照井雅子研究室内

(Chapter Office: c/o Masako Terui, Faculty of Science and Engineering, Kinki University)

E-mail: jacetkansaichapter@gmail.com URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

学会活動に学ぶ—JACET Journal Committee

理事 梅咲敦子

思いがけず 2012 年度から JACET Journal 担当理事をさせていただき、その任を本年度末で終えます。学会活動といえば、大会・講演・シンポジウム等における発表や視聴や論文刊行を通じた研究情報の交換を指しますが、それらの遂行に必要な仕事もあります。今回、後者の任から貴重な学びの機会をいただきました。ここに、感謝の気持ちを込めて、この 3 年弱の JACET Journal に関わる変化を、投稿時のお願いを含めてまとめ、私のふれあった人々からの学びを述べさせていただきます。

2012 年度以降の JACET Journal に関わる顕著な変化の第一は、皆様ご存じのように、2013 年度 4 月応募締切の 57 号から、オンライン投稿が開始され、同 10 月締切の 58 号からはオンライン投稿のみになったことです。紀要担当委員会では、Format Checklist をウェブページにアップし、既存の Sample Manuscript をさらに分かりやすくしました。

会員の皆様には、投稿に際しては、Submission Guidelines とともに Format Checklist と Sample Manuscript を必ずご参照ください。ご注意いただきたいことに、(a) 査読者に応募者が特定できないよう、投稿時には、論文中はもとより参考文献では、投稿者すべての書誌情報をアスタリスクで置き換えること、および謝辞が含まれていないこと、(b) JACET Journal は *Publication Manual of the American Psychological Association, 6th edition* に基づいた書式で刊行されていますので、準拠していただくことがあります。セクションタイトル、図表のタイトル、参考文献の書き方には特にご注意ください。

第二の変化として、2013 年度から学会賞・学術出版物選考委員会が設立され、審査体制が確立しました。実は、この結果、紀要担当委員会の役割と実際の仕事内容が大きく変わりました。2012 年度までの紀要委員会でも多くの時間を割いていた、査読委員の選定と依頼の仕事が、学術出版物選考委員会に移りました。空いた時間でまず、Format Checklist の作成と Sample Manuscript の修正を行いました。これは、国際的な質

の高いジャーナルの刊行を目標に、投稿者の便宜をはかり、投稿者の数を増やすこと、国際ジャーナルとして統一書式を徹底することをめざしたものです。

第三の変化として、2014 年度から *Selected Papers* (ウェブ版) 刊行に伴い、JACET Journal は年度内 1 回刊行となります。この機会に、紀要担当委員会は、応募者と査読者が内容に関わるやりとりをできるようにする可能性を含む、応募者に最大限有利な日程を提案しました。しかし、応募者だけでなく、査読者も会員ですから、最終的に、双方に無理のない日程が採用されました。紀要年 1 回の発行のメリット活用は、次の委員会に委ねることをご容赦ください。

第四の変化として、2012 年度から導入された支部選出理事の委員会担当と、2013 年度に行われた旧紀要委員会の学術出版委員会 (紀要担当と *Selected Papers* 担当) への再編があります。この結果、私は、東京の JACET 事務所で開催される年何回かの委員会に参加し、委員長、副委員長、本部委員の先生方と出会えました。共に作業させていただくなかで、関東の先生方の熱意やご苦勞がよく分かりました。支部選出委員の先生方と国際大会でひととき交流できるのも楽しみです。オンライン投稿開始、Checklist 公開など小さなあたりまえのことにしか見えませんが、本部紀要委員会が長年蓄積されてきた資源の成果であり、実行までには検討に相当の時間も要しました。今後修正も必要です。ウェブページ作成と管理は、本部総務委員会ネットワーク担当の先生のご尽力によります。

以上の変化は、改革のために、本部総務委員会や事務局の方々などが費やされた膨大な労力の成果とよく分かりました。類似の経験を様々な組織でお持ちの先生方も多いことでしょう。学会委員の活動に学び、出会えた人との結びつきを大切にしたいと考える日々です。

蛇足ながら、本務校からの学会役員活動参加への支援にも感謝します。

■支部研究会のご案内■

JACET 関西支部では 8 つの研究会が活発に活動しています。以下に、本年度の各研究会名、代表・副代表者名、代表・副代表者連絡先を紹介しします。各研究会では原則として、常時、新入会員の申込みを受け付けておりますので、興味・関心のある研究会がありましたら、お気軽に各研究会の代表者までご連絡ください。また、最新の活動情報は JACET 関西支部 HP にてご確認ください。

JACET Kansai Chapter has the following eight Special Interest Groups (SIGs) that meet regularly. According to the JACET policy, they are run as two-year projects, being renewed every two years with new leaders. For more information, refer to <http://www.jacets-kansai.org/group.html> or contact the chair of the SIG in which you are interested.

◆文学教育研究会 (Literature in Language Education)

代表：吉村俊子 (花園大学)
ty3asy[AT]mbox.kyoto-inet.or.jp
副代表：石本哲子 (大谷大学)
icimot@gmail.com

◆学習英文法研究会 (Pedagogical English Grammar)

代表：吉田幸治 (近畿大学)
k_yoshida[AT]bus.kindai.ac.jp
副代表：山本修 (大阪市立大学)
yamamoto[AT]mae.osaka-cu.ac.jp

◆ESP 研究会 (English for Specific Purposes)

代表：照井雅子 (近畿大学)
terui[AT]kindai.ac.jp
副代表：服部圭子 (近畿大学)
khattori[AT]waka.kindai.ac.jp
副代表：上村バックス尚美 (近畿大学)
backes[AT]waka.kindai.ac.jp

◆海外の外国語教育研究会 (Foreign Language Education Abroad)

代表：林 桂子 (広島女学院大学)
aabch005[AT]zeus.eonet.ne.jp
副代表：米崎 里 (福山大学)
michi[AT]fuedu.fukuyama-u.ac.jp

◆教材開発研究会 (Materials Development)

代表：幸重美津子 (京都外国語大学外国語専門学校)
yuki[AT]balloon.ne.jp
副代表：尾鍋智子 (大阪大学)

onabe[AT]msc.osaka-u.ac.jp

◆リスニング研究会 (Listening)

代表：原田洋子 (関西国際大学 (非))
brisk4050[AT]ta2.so-net.ne.jp
副代表：松村優子 (近畿大学 (非))
yuko-ma[AT]kcc.zaq.ne.jp

◆リーディング研究会 (Reading)

代表：表谷純子 (関西学院大学)

j.omotedani[AT]gmail.com

副代表：川崎真理子 (関西学院大学)

mariko.kawasaki[AT]nifty.com

◆ライティング指導研究会 (Writing)

代表：山西博之 (関西大学)

hiyamani[AT]kansai-u.ac.jp

副代表：嶋林昭治 (龍谷大学)

shima777[AT]biz.ryukoku.ac.jp

■2014 年度春季大会の報告■

2014 年度 JACET 関西支部春季大会が、2014 年 6 月 14 日(土)に大阪薬科大学にて開催されました。今大会では、大会の活性化を目指し、学生会員も含めた多くの皆様からのご発表を募集したところ、実に多彩かつ、興味深いご発表が 15 件ありました。午前に関西大学の染谷泰正先生による企画ワークショップが行われ、多くの参加者の方が熱心に耳を傾けておられました。休憩を挟み、午後からは研究発表が行われ、続いて明治学院大学名誉教授の筒井正明先生による「英文和訳再考：『英文解釈演習室』の現場から」のスペシャル・トーク、最後に、東京大学の斎藤兆史先生による「朱牟田夏雄の英語教育論と JACET の原点：『教養』英語再考」の招待講演が行われました。参加者総数は、129 名となり、盛況な大会となりましたことをご報告いたします。

The JACET Kansai Chapter Spring Conference was held on June 14th at Osaka University of Pharmaceutical Sciences with 129 participants attending sessions presenting 15 research reports. There were also an Invited Workshop by Prof. Yasumasa Someya (Kansai University) and a special talk by Prof. Emeritus Masaaki Tsutsumi (Meiji Gakuin University) under the title "Reconsidering English-Japanese Translation Method." The final event of the day was an Invited Lecture delivered by Prof. Yoshifumi Saito under the title "Shumuta Natsuo's View of English Education and the Starting Point of JACET: Reconsidering English for 'General Education.'"

<企画ワークショップ>「英語教員のための字幕翻訳入門—『語学教育における翻訳』」

講師：染谷 泰正 先生 (関西大学)

本ワークショップでは、まず外国語教育における通訳翻訳の位置づけについてご講義いただいた。通訳や翻訳は、GT 法へのリアクションや翻訳に対する誤解などが原因で、外国語教育の中で長く無

視されてきたが、CEFR (2001) において、受容能力、産出能力、相互作用能力と並び、(主として異言語間の) 仲介能力がコミュニケーションのための言語活動として位置づけられたことなどが契機となり、TILT (Translation in Language Teaching) が導入されるようになってきた。後半では、その実践例として、Wizard of Oz (1939) の字幕翻訳を通して、単なる「訳」から日本語の質が問われる「翻訳」への転換とはどういうことなのかを体験させていただいた。ワークショップの 1 時間以上も前から会場にお越しいただき、入念に準備され、貴重な資料を惜しげもなく提供して下さった染谷先生のお人柄と教育に対する情熱には、ただ感激するばかりであった。

報告者：森下美和 (神戸学院大学)

<スペシャル・トーク> 「英文和訳再考：『英文解釈演習室』の現場から」

講師：筒井 正明 先生 (明治学院大学名誉教授)

『英語教育』誌上の「英文解釈演習室」で毎月、あるときは厳しく、さらにあるときはもっと厳しく投稿者を叱咤激励してくれる筒井先生は、誌面そのままの迫力と情熱で私たちに「熱く」英文と対峙すること、自分の経験と知識のすべてをそこに投入して、全人的な解釈を引き出すことの重要性を語ってくれた。直訳と意識のちがいはなく、あるのは正しい訳と間違った訳だけであること、そこには翻訳のテクニックではなく、訳す側の内面がさらけ出される場であることを。カーソン・マッカラーズからの愛についての英文を題材にした「ライブ演習室」では、日本語に置き換えて訳した気分になるのではなく、different countries の奥の意味に踏み込むこと、of any description の of をおろそかにせず丁寧に訳すこと、そして全体を流れる作者の描く愛の苦しさへの共感の重要性などが語られた。はたして自分はこれまで「経験と思索と感覚を総動員して」訳していただろうか？ 内心慄然としつつ、特等席で耳を傾ける幸福を味わっていた 70 分であった。

報告者：加藤雅之 (神戸大学)

<招待講演> 「朱牟田夏雄の英語教育論と JACET の原点：『教養』英語再考」

講演者：斎藤 兆史 先生 (東京大学)

招待講演講師の斎藤兆史先生が若手の頃に東京大学教養学部で教えていた時、当時の先輩教員から尊敬を集め、偉大だという噂が轟いていたのが、朱牟田夏雄であった。朱牟田は、JACET 初代会長を務め、数々の英文学作品の名訳を手掛けた英文学者であると同時に、日本で教鞭をとっていたこともあるというデレク・ブルワー (ケンブリッジ

大学名誉教授) をして上質で格調高い英語を繰る英語教師と言わしめ、加えて謙虚で素晴らしい人間性も備えた人物であったと紹介する、斎藤先生のお話しぶりからも、先生自身、朱牟田に対して敬意を払っていることが伝わってくる。斎藤先生はご講話の前半で、朱牟田の業績、人となり、英語教育論をあぶりだすように、朱牟田自身が書き遺されたもの、大勢の同僚や弟子の談話などの各種資料をふんだんにご紹介下さった。さて、そうした朱牟田の英語教育論とはどういうものであったのか。ご講演の後半では、朱牟田の著作の中からいくつかの主張に基づき、朱牟田の考える、また、斎藤先生のお考えになる英語教育論が展開された。例えば、「中学では正しい発音や正しい抑揚を教え、高校や大学教養課程では音声インプット・アウトプットの機会は確保しつつ読み書きの方に焦点をシフトする方が良い」という朱牟田の論に対して、斎藤先生からは「教養人らしい sense of proportion (バランス感覚) が感じられる」との評。

「語学教師である者は技術を伝授する自覚に徹すべき」という考えに対しては、「実用と教養という二項対立の中では英語教育を技術教育と考えていることがわかって興味深い」。加えて、斎藤先生自身も、技術の延長に教養主義があると考えたいというコメントを添えられた。そして、「教室は外国語会話の修練には不向きである」と断じた朱牟田に対して、「我が意を得たり」と斎藤先生。外国語教育の教室で、読み書きに費やしていた時間の全てを会話に変えたら、どんな末恐ろしいことになるか。日英語では処理が違うため、読み書きと聞き話すことに同じ時間をかけた場合、同じように向上するものでもないし、また、昨今流行している協働学習においては、生徒同士が不完全な英語やいい加減な発音で対話をする事になり英語力向上を期待するのは難しいであろう、と言語の学習・習得・教授法の本質に切り込み、警鐘を鳴らされた。ご講演終盤ではさながら、著作の中から朱牟田が立ち現れ、斎藤先生と英語教育論に花を咲かせているような光景が見えるようであった。

報告者：生馬裕子 (大阪教育大学)

■2014 年度第 1 回支部講演会の報告■

JACET 関西支部 2014 年度第 1 回講演会 (招聘講師による講演) が、2014 年 7 月 5 日 (土) に武庫川女子大学中央キャンパスで開催されました。

司会：照井 雅子 先生 (近畿大学)

講師：南 雅彦 先生 (サンフランシスコ州立大学)

演題：「テキストと談話：語り (ナラティブ) と語学学習の架け橋」

合計で40名の参加があり、発表後は講師の先生と
参会者との活発な議論が展開されました。多くの皆様
のご参加、誠にありがとうございました。

The 1st Lecture Meeting of the 2014 academic year was
held on July 5th at the Central Campus of Mukogawa
Women's University, with 40 participants. Much
interest was generated by the presentation of Prof.
Masahiko Minami, San Francisco State University, on
"Text and Discourse: Building Bridges Between
Narrative and Language Learning."

■2014年 JACET 関西支部第2回・第3回 支部講演会の案内■

JACET 関西支部では、下記の通り、年度内にあ
と2回の講演会を予定しております。

第2回：2014年10月18日（土）

海外の外国語教育研究会企画特別シンポジウム
場所：同志社大学烏丸キャンパス
演題：国際的にみた外国語教員の養成—日本の
外国語教育を考えるために—
趣旨：1999年6月のケルン・サミットは、異例
にも教育をその主要議題として取り上げ、ケル
ン憲章を発表して「21世紀は教育の世紀」であ
ることを世界に謳いあげました。

たしかに、新世紀に入って以後、世界の教育
改革の動きには、文字通り目を見張るものがあ
ります。とりわけ、各国の教員養成と教育予算
の拡充ぶりに、それははっきりと表れています。
ところがひとり日本は、この世界の動向に背を
向けて、むしろそれに逆行する動きさえも強め
ているようにみえます。

本シンポジウムは、こんなわが国の外国語教
育を含む教育の実態を、広く国際的な視点から
多角的に点検しようとするものです。

第3回：2015年3月7日（土）

教材開発研究会企画特別シンポジウム
場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス（予定）

- ※参加費：JACET 会員は無料。非会員は500円。
事前申し込みの必要はございません。
- ※要旨などの詳細は、開催が近づきましたら、支部
HPに掲載致しますのでご覧ください。

JACET Kansai Chapter will hold two other Lecture
Meetings in this academic year as follows:

- The 2nd Lecture Meeting by the special interest
group for Research on Foreign Language Education

Abroad on October 18th, 2014 at the Karasuma
Campus of Doshisha University

- The 3rd Lecture Meeting by the special interest
group for Materials Development on March 7th,
2015, at the Osaka Umeda Campus of Kwansai
Gakuin University,

Refer to details at the JACET Kansai Chapter home
page (<http://www.jacet-kansai.org>).

Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need
to pre-register.

■第53回国際大会のお知らせ■

2014年8月28日（木）から30日（土）まで広島
市立大学にて、第53回国際大会が開催されます。大
会テーマは「平和と友好をめざす英語コミュニケー
ション力の育成」です。皆様のご参加をお待ちして
おります。

開催日程：8月28日（木）～8月30日（土）

開催場所：広島市立大学

大会テーマ：平和と友好をめざす英語コミュニケー
ション力の育成

要旨：政治・経済活動のグローバル化とともに、日
本人の英語によるコミュニケーション能力の育成
が重要課題と認識されるようになって久しい。政
治・経済のみならず、教育、研究、文化交流など、
様々な分野で英語は今や世界を繋ぐリンガ・フラン
カとしてもっとも現実的に機能している言語とい
えよう。そうした英語の圧倒的優位の状況を危惧す
る批判的意見がある一方で、過去のどの時代よりも
世界的な対話と協調を必要とする今の時代にあっ
て、ひとつの言語を共有できる恩恵は否定できな
いだろう。英語教育は世界の平和と友好に寄与す
るのか、もし寄与するとすれば、それはどのような
もので、そのための英語コミュニケーション力育
成に向け私たち英語教育関係者は何をすべきな
のであろうか、本国際大会で国内外の研究者を
交えて考えてみたい。

The JACET 53rd International Convention

- Theme: Fostering English Communicative
Competence for Peace and Friendship
- Date: August 28 (Thu) – August 30 (Sat), 2014
- Venue: Hiroshima City University
- Along with the globalization of politics and business,
developing Japanese people's communicative
competence in English has long been recognized as a

matter of urgent importance. No one can deny the fact that English now functions as a de facto lingua franca connecting people throughout the world together for many purposes, even beyond politics and business. While there has been severe criticism of its excessive predominance, the benefits of sharing a common language are also undeniable, especially now when global communication and cooperation are more vitally needed than at any time in the past. How can English education contribute to the promotion of world peace and friendship? What would communicative competence for such purposes be like and what should we as English educators do to cultivate it? These questions will be discussed and considered by participants from Japan and throughout the world at this international convention.

Visit the 53rd International Convention URL
<http://www.jacet.org/2014convention/index.html>

■2014年度関西支部秋季大会のお知らせ■

2014年度関西支部秋季大会は、11月29日（土）に龍谷大学大宮キャンパスにて開催されます。8月1日（金）よりWEBフォームからの発表応募がJACET 関西HPで開始されます（<http://www.jacet-kansai.org>）。発表募集の締め切りは9月30日（火）です。

The 2014 Fall Conference of the JACET Kansai Chapter will be held on Saturday, November 29th at Omiya Campus of Ryukoku University.

We welcome presentation proposals from all members, including our student members. A web-based proposal form will be available at the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>) from August 1st. The submission deadline is September 30th (Tue). Come and share your work with the JACET community!

募集要領

この大会でのワークショップ・コロキウム・研究発表・実践報告・ポスター発表を募集致しますので、発表をご希望の会員の方は、次の要領で関西支部事務局までご応募ください。

1. 発表は、英語教育および関連分野に関する内容で、未発表のものに限ります。
2. 発表者（共同発表者を含む）は、JACET会員に限ります（申込時点で会員資格が必要です）。
3. 発表言語は、日本語または英語です。
4. 発表種別・時間は、以下の通りです。
ワークショップ：発表者は1名～数名。参加者によ

るタスク活動を含む。90分。

コロキウム：発表者は数名。特定のテーマについての議論を行う。90分。

研究発表：理論的、実証的な研究成果に関する発表を行う。30分（発表20分＋質疑10分）。

実践報告：授業実践やカリキュラム改革に関する報告を行う。30分（発表20分＋質疑10分）。

ポスター発表：研究・報告内容について発表し、参加者と自由に議論を行う。コアタイム60分。

5. 応募についてはJACET関西支部ホームページ（<http://www.jacet-kansai.org>）の「発表申込」をクリックして、以下の応募情報を入力または選択してください。

(応募情報)

- a) 発表形式：ワークショップ、コロキウム、研究発表、実践報告、ポスター発表の別
- b) 発表題目（日本語および英語）
- c) 発表者情報（共同発表者は氏名と所属のみ）：氏名（漢字とローマ字）、所属（日本語と英語）、E-mailアドレス
- d) 発表に使用する言語（日本語もしくは英語）
- e) 使用する機器（無い場合は「なし」を選択）

(発表要旨)

- a) 内容：「研究発表」の場合は、目的、仮説（リサーチクエスション）、研究方法、結果、考察を、「実践報告」の場合は、背景、具体的内容、実践結果に対する考察を簡潔に明記ください。「ワークショップ」「コロキウム」は目的、対象、手法を詳しく明記してください。「ポスター」の場合も扱う内容に応じ、これらに準ずることとします。いずれの場合も引用文献リストは要旨に含めません。
 - b) 分量：日本語の場合は350字～400字、英語の場合は200～250 wordsとする。
 - c) その他：母語以外の言語で要旨を作成する場合は、あらかじめネイティブチェックを受けた上で提出してください。
6. 応募の期限は、2014年9月30日（火）午後11時59分です。
 7. 審査は、JACET関西支部研究企画委員会にて行います。
 8. 審査結果は、締切り後2週間程度でE-mailにて通知します。またフィードバックを必要に応じて行います。

Call for Papers for the Kansai Chapter 2014 Fall Conference

JACET members are invited to present proposals for

research papers, practical reports, poster sessions, workshops, and colloquia.

The conditions and procedures for proposals are as follows:

- 1) Proposed topics should be relevant to English education and related fields. The proposed material should not have been presented elsewhere.
- 2) Prospective presenters (both representative presenters and collaborators) must be JACET members at the time of submission.
- 3) The language for presentation should be either English or Japanese.
- 4) Presentation types and time allotments are as follows:

Workshops: Presenter(s) will guide participants in specific tasks. 90 minutes.

Colloquia: Each presenter gives a presentation followed by discussion among the presenters and with the floor. 90 minutes.

Research papers: Presenter(s) will describe theoretical or empirical research. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).

Practical reports: Presenter(s) will describe classroom activities or ELT curriculum innovation. 30 minutes (20 min for presentation; 10 min for Q & A).

Poster presentations: Presenter(s) will participate in one-on-one discussion of research or practical report using a poster. 60 minutes (core time).

- 5) To submit your proposal, please go to the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>) and click on "Paper Submission" to enter and select the following information.

A) Application form:

- a) Type of proposal (research paper, practical report, poster session, workshop, or colloquium)
- b) Title of proposal (English and Japanese)
- c) Information about applicant(s): name, affiliation, e-mail address
- d) Language for presentation (English or Japanese)
- e) Equipment required

B) Abstract:

- a) Describe the purpose of the research, research question(s), research method(s), results and discussion. For a practical report, give the background of the report, details, conclusion,

and other relevant information. Do not include references in the abstract.

- b) Should be 200-250 words if in English or 350-400 characters if in Japanese.
 - c) If not a native speaker of the language used, have a native speaker check the abstract before submission.
- 6) Submission deadline: 11:59 pm, September 30th, 2014.
 - 7) The proposals will be peer reviewed by the Research Planning Committee.
 - 8) Review results and feedback, as necessary, will be sent by e-mail two weeks after the deadline.

■ 紀要編集委員会より ■

今年度刊行の第17号支部紀要は、招待論文、一般投稿論文に加え、支部大会や全国大会で発表された内容に基づく論文を募集します。論文投稿締め切り期日は10月15日(水)となっております。JACET 関西支部会員の皆様におかれましては、研究・実践の成果を支部紀要で報告していただけるように、投稿規定をご確認の上、第17号紀要にも奮ってご応募ください。

投稿期限：2014年10月15日(水)午後11:59

論文送付先：紀要編集委員会 事務局長
鎌倉義士(愛知大学)

[jacetkj\[at\]gmail.com](mailto:jacetkj[at]gmail.com)

提出方法：電子メールの添付ファイルのみ(原稿郵送は不要)

※ 受領後3日以内に確認の返信が届きます。万一日経っても返信が届かない場合は、鎌倉まで再度ご連絡ください。

※ 提出方法の詳細は、JACET 関西支部ホームページをご覧ください。

(<http://www.jacet-kansai.org/file/toukoukitei.pdf>)

重要な日程：

2014年 10月15日(必着) 投稿原稿締め切り

12月15日 審査結果通知

2015年 1月31日(必着) 修正原稿締め切り

3月31日 刊行

JACET Kansai Journal Call for Papers

Kansai Chapter members are welcome to submit manuscripts for consideration for publication in JACET Kansai Journal (JKJ) No. 17.

Papers should be related to research on college English language education or relevant areas. The JACET Kansai Journal especially welcomes papers that

have been presented at JACET chapter or national conferences within the past year. Please check the guidelines for details on submission procedures and requirements available at <http://www.jacet-kansai.org/file/toukoukitei.pdf>.

Submit manuscripts to:

Yoshihito KAMAKURA, Ph.D.
JACET Kansai Journal Secretariat
jacetkj [AT] gmail.com

If you do not receive a message confirming the receipt of your manuscript within 3 days, please request confirmation. Only e-mail submission will be accepted. Postal submission of paper-based manuscripts will NOT be accepted. Prepare your manuscript according to the JKJ instructions using Microsoft Word. Send it as an attached file with an email message to Dr. Yoshihito KAMAKURA, Secretariat, JACET Kansai Journal.

Important Dates:

- Deadline for manuscripts:
October 15, 2014 (via email as an attached file)
- Announcement of editorial decision:
December 15, 2014
- Deadline for receipt of revised manuscripts:
January 31, 2015 (via email as an attached file)
- Publication:
March 31, 2015

Refer to the guidelines and template at the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■事務局便り■

支部会員向けの各種案内の配送やメーリング・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号など）が変わられた方は、**必ず**ご連絡ください。

紀要、講演会案内フライヤー、ニューズレターなどのお届けに支障が生じるおそれがございますので、今一度ご確認ください。

事務局からのご連絡のメールが、宛先不明等で数多く戻って参ります。JACETへお届けになっているメールアドレスをご確認ください。

なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。ご異動等のご連絡は、本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp) までお願いいたします。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers or other personal information to **JACET headquarters** (jacet@zb3.so-net.ne.jp).